

檮だより

2020. 11. 15. Sun.



第56回文化祭、大成功！

11月15日(日)文化祭が開催されました。コロナ禍で、様々な制約はつきましたが、それらの制約をものともせず、生徒も保護者もあらゆる智恵を絞って最高の文化祭を実現しました。困難や不自由さは、むしろ人を強くし自由のために結束させるのかもしれませんが。文化祭の展示や催しは、すでにHPのブログで沢山の写真が紹介されていますし、まもなく動画もアップされますが、私もいくつかの展示について感想を書いてみます。(全部取り上げることができなくてすみません。m(>o<)m)



左は書道部の作品です。

「心に灯(とも)る光を笑顔に繋(つな)げ
最高の仲間との出会いに感謝を忘れない」

何があっても決して諦めないで、いつも心に光を灯していれば、必ず笑顔になれる。いつも感謝の心を忘れなければ、きっと最高の仲間に出会うことができる。苦しいときこそ思い出したい素敵な言葉です。



平和への思い



3年1組は、岡本太郎の壁画「明日の神話」の模写に挑戦しました。教室の端から端までをいっぱい使って、丁寧に書き上げた壁画は見事なものでした。教室中に折り紙を散りばめ、入り口には



3年1組の生徒自身が考えた平和宣言を掲示し、すべての展示から平和への強い思いが感じられました。同じく3年4組も平和をテーマにした展示で、世界各国の「平和」を意味する言葉を集め、それを使ったトリックアートを描くという面白い視点から作品を制作していました。右はイタリアのピサの斜塔で、イタリア語の「平和」は「pace」。パーチェと発音します。右の写真で、塔を支えるポーズをとっているのは、3年4組の副担任、公民科の高木先生です。優しい!!





小さな祈りの影絵展

平和と言えば、本校では毎年文化祭で「小さな祈りの影絵展」を行っています。これは、様々な個人・団体が平和への思いを影絵作品にし、それをはめ込んだオブジェ（左）を8月5日・6日に平和公園で野外展示をした後、1年かけて巡回展示するという取り組みです。今年で15回目になりました。こうした展示を見ると、広島なぎさの生徒は、平和を自分のこととして考えることが自然に身についているのだと感じます。



You are genius!

左の写真は、美術の時間に生徒が描いたデッサン（鉛筆）です。描いたのが中学1年生と聞いて思わずうなずいてしまいました。写真ではわからないと思いますが、とにかく毛の一本一本が精密に描いてあって立体感がすごい。まるで生きているかのようでした。

下の作品はいずれも5年生のデッサン（コラージュ／色鉛筆）ですが、実に面白くて、手の込んだ作品ばかりでした。今年の美術作品展示は質・量ともにまちがいなく過去最高です。



樺(けやき)のもみじは赤 or 黄色？

先日、正門でふと気がついた。体育館の門の前には、本校で一番早く紅葉する桜の木があるが、そのすぐ隣には樺が立っている。その樺が桜紅葉に負けないくらい赤いのである。私はそれまで漠然とだが、樺は黄葉するものと思っていた。それが目の前の樺は赤い。私は、湧いた疑問をそのままにすると落ち着かない。そこで、いつものようにネットで調べてみた。

紅葉する代表的な木は、ナナカマド、カエデなど、そして、黄葉の代表格は、イチョウブナやコナラである。ところが、樺は紅葉するものもあれば、黄葉するものもあり、それは遺伝的に決まっているようだ。しかも、赤と黄色というようにきれいに二種類に分かれるわけではなく、中間色の橙色もあれば、それらの色が混じっているものもあることがわかった。確かに、そう思って改めて中庭の樺を見ると、緑、黄色、橙色、そして赤も結構混じっている。「樺だより」などこのエッセーを名付けておきながら、樺のことをちゃんと見ていなかったと大いに反省した。何事も思い込みは禁物だ。真実を遠ざけてしまうからである。